

あすけ里山ユースホステル

調査団体名	あすけ里山ユースホステル	団体代表者名	小川光夫
設立年	1998(平成10)年5月	対応してくれた人の名前	小川光夫
団体URL	http://www.ne.jp/asahi/asuke/satoyamayh/		
活動拠点	豊田市椿立町坂27-2	調査員	蜂須賀功、浜口美穂
取材日	2014年12月5日	レポート作成者	浜口美穂

活動内容

●都会から田舎への軌跡

名古屋市在住だった30数年前、ユースホステルを利用して旅をしている間に田舎の良さ、豊かさ、自然の素晴らしさを知り、27年くらい前に愛知県にある村に移住する。

その後、足助町に移住。閉校になった椿立小学校を平成10年に借りて「あすけ里山ユースホステル」と「貸農園」を始める。

●ユースホステル(YH)の企画・運営・協力活動

① イベント…四季折々いろいろなイベントを独自に催したり、豊田市、恵那市、根羽村などにある名所や温泉、観光地を紹介したりしている。

・自然観察…星見会、ホテル観賞、香嵐溪の紅葉ライトアップ見学、休耕田ビオトープでトンボ・メダカ・カエルの観察会など。

・地域のイベント案内ツアー…中馬のおひなさん、たんころりん、綾渡の夜念仏と盆踊り、平勝寺で除夜の鐘つきとお年越しなど宿泊者と一緒に行き案内をする。

・手ノコで行う間伐のお手伝い…地主さんによる伐倒の指導や間伐の必要性の話などを通して参加者との交流を深める。

・紙すき体験、藍染め・草木染め体験など。

② 貸農園…都市部の人たちの畑作業を通じた憩いの場となっている。

③ とよた都市農山村交流ネットワーク足助地域会の人たちと共にセカンドスクール(豊田市内の小学生の田舎体験・自然体験)の受け入れ。

④ NPO法人 共存の森ネットワーク(東海地区の大学生・高校生)の受け入れ。

●個人的活動

① 「椿立里山クラブ」

近所の休耕田を借りて「休耕田ビオトープ」の維持・管理を都市部の人たちと一緒にしている。ビオトープに棲んでいるトンボ・カエル・水生昆虫・植物などの観察も。宿泊したお客さんや子どもたちにも観察や泥んこ体験をしてもらっている。

② 「足助YH自然観察会」

基本的に旧足助町地内に限定して観察会を行っている。メンバーは5人、市内の森林インストラクターの方が先生。2013年に「足助の自然を歩く」という冊子を発刊。

キャッチフレーズ

宿泊客と地域の架け橋に

会のモットー(何を大切にしているか)

何気ない山里の自然や文化を大切に思っている。

設立から現在に至るまで変化したこと

開所当初は旅好きなYH会員が主な客層であったが、自然観察などイベントを行って年を経るにつれ、一般のお客さんも増えてきた。特に小さい子どもがいるグループやご家族の利用が増えた。

また、矢森協や森林学校を通して間伐ボランティアの人たちとも親交が深まってきた。

連携している団体・専門家・自治体など

日本ユースホステル協会、矢作川水系森林ボランティア協議会(矢森協)、足助きこり塾、とよた森林学校、とよた都市農山村交流ネットワーク、豊田市、三州足助屋敷、NPO法人共存の森ネットワークなど

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

椿立自治区では数年前より共存の森ネットワークの学生たちの受け入れを行っている。愛知・静岡・岐阜・三重の大学、高校生が参加している。地元のおじいちゃん、おばあちゃんから今までの生活や仕事などの聞き書きをしながら学び、自分たちはこの集落とどう関わっていくかを考えている。

現在、環境問題の取り組みとして、漆畑町で若者を含む地元の人たちと共に、荒れた竹林の整備を実施。その竹の利用方法として試験的に野焼きで竹炭を作るなど、研究熱心に取り組んでいる。参加人数も増え、地元の若い人たちと共に、今後さらなる地域活性化のアイデアが出てくるものと期待されている。

現在直面している課題

- ・ユースホステル会員の減少。
- ・里山クラブ・観察会メンバーが高齢化している。
- ・農園やビオトープがイノシシやシカによる被害を受け、修復作業に苦労している。

今後やってみたいこと

- ・足助より車で1時間くらいの範囲内にある、ガイドブックに載っていない地元しか知らない名所、温泉、お店の紹介。
- ・山里の自然や文化に興味のある外国人旅行者の集客。
- ・新規イベントの企画。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

- ・愛知県、豊田市、恵那市、根羽村など近隣市町村の観光情報収集。
- ・英文観光資料を作るための英語翻訳をしてくれる人。

チームオリジナルの質問

<質問内容> 様々な体験イベントを企画されていますが、そのきっかけは何？

<答え>

田舎暮らしを始めた時、そこに暮らす人々のいろいろな手仕事や山仕事などの技術や、それに伴う知恵の素晴らしさに感動した。自分自身でできることは少ないが、いろいろな人に協力をしてもらいながら、それを宿泊者に体験を通して伝えることができたらいいなと思うようになったから。これは、田舎だからこそできることだと思う。

その他、伝えたいこと

閉校した校舎を活用した「あすけ里山ユースホステル」の部屋の名称は、学区内の地域の名前になっている。廊下には当時の鏡や子どもたちが描いた絵も残り、フロントには校歌が額に入れて飾られている。また、談話室には「椿立小学校誌」「椿立家族ものがたり」などの地域資料も。これらが地域のことを話すきっかけになっている。

昔は地域の人をつないでいた学校が、今はユースになり、外の人と地域の人をつなげるようになった。

写真



校舎を活用したあすけ里山ユースホステルの外観



談話室にて



間伐のお手伝い



共存の森—竹林整備



セカンドスクール
足助地域会メンバーと共に



ビオトープで生きもの探し



校庭が子どもたちの遊び場に



草木染め体験